

支部 REPORT 川崎・麻生支部

2017.1.31 掲載

麻生支部長 黒田 為 (S49年卒)

川崎市民の多くは麻生区を川崎北部と称し、北のはずれにあると思っていますが、正確には北西部に位置しています。1982年に多摩区から分区し現在に至っています。

人口は17万4千人と、市内7つの区の中では下から2番目。平成23年以降は人口増加率が1%を切っているものの、穏やかな増加を続けています。

多摩丘陵の一角に位置し、三方向を東京都稲城市・町田市・横浜市に囲まれており、その真ん中を小田急線が名実ともに動脈のように通っています。麻生区の子どもたちは、家族でお出かけと言うと電車で2~30分の新宿や渋谷に行くことが多いようで、川崎市内の中心部ともいえる川崎駅はもとより、溝の口や小杉に出かけることはまずありません。地理的にも文化的にも、東京とのつながりや志向が大変強いのです。

区の中心駅である小田急線新百合ヶ丘駅は、1日12万人を超える利用者で混み合います。大型のショッピングモールが次々と建てられ、駅前には平日の昼間でも大変なにぎわいをみせます。

この新百合ヶ丘駅を中心に、川崎市は地域住民と意見を交換しながら計画的に魅力ある街づくりに取り組んでいます。そのおかげで、川崎市ではめずらしい「駅に近い」区役所があり、市民館・図書館・スポーツセンターなどが周りを囲みます。

しかしながら、新百合ヶ丘駅を中心に、布が水を吸うようにどんどん拡張していく

開発は、決して勝手気ままなものではなく、かつての多摩丘陵に広がっていた里山や、農地を意図的に残していこうとするムーブメントと絶妙なバランスを取りながら、すすめられています。

区内には、大学が3つ。中でも日本映画大学は日本初の映画専門の大学であり、昭和音楽大学とともに川崎市アートセンターとコラボし、「しんゆり芸術のまち」の推進力となっています。

毎年開催される「アルテッリッカしんゆり」などの文化フェスティバルは、子どもたちとも密接な関係があり、学校ぐるみの参加も数多く見られます。また、現在では国内では権威があるといわれている「KAWASAKIしんゆり映画祭」も毎年開催されています。

前述の大学のほか、区内には公立小学校が16校、中学校が8校（小中一貫校1を含む）、県立高校が2校、県立養護学校1校があります。

さて友松会麻生支部ですが、この恵まれた環境の中で、28年度現在校外会員33名、校内会員47名がおります。校内会員はもとより、また少し寂しいことに校外会員も少しずつ減少しています。

8月に行われる支部総会を中心に活動が行われております。参加者は少ないものの、会員相互の交流を深めるだけでなく、ここ2年間は最近の教育事情にかかわる研修も取り入れています。